

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和5年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	生徒の実態に対応した基礎学力の定着と自主的に学習に取り組む態度の育成
現状	<ul style="list-style-type: none">基礎学力（計算力、文章読解力など）が不足している生徒が増えている。家庭学習の状況は、毎日学習する生徒が全校生徒の約 65.0%（2月調査）と少ない。工業高校で取得可能な資格検定について、生徒が自ら積極的に取り組むよう指導しているが、多様な生徒への対応に苦慮している。
達成目標	○毎日学習をする生徒が70%以上 ○各学科で主たる資格検定を設定し、重点指導、全員合格を目指す
方策	<ul style="list-style-type: none">朝学習で復習ドリルや問題集を行い、基礎学力の確実な定着を図る。また、朝学習と連携した夏季・冬季休業中の課題やワークに取り組みせ、確認テストや宿題テスト等で学習意欲の喚起に向けた指導の工夫・充実を図る。将来の進路や得意分野の伸長のために、生徒自身で資格取得への目標を立て、学習の計画を立てて取り組むことで、授業以外の学習時間を有効に活用できるように工夫する。 〈主たる資格検定〉 機械科・・・1年次の計算技術検定、情報技術検定、危険物取扱者三種 電気科・・・第2種電気工事士、第1種電気工事士、2級電気工事施工管理技術検定 電子科・・・情報技術検定、パソコン利用技術検定、工事担任者第二級デジタル通信ICT機器を積極的に利活用し、授業における指導内容・方法の研究をすすめ、生徒の学力向上や生徒の主体的な学びを育む。タブレット端末を活用した授業展開や朝学習・資格検定の学習に向けた効果的な利用法を推進する。
達成度	毎日学習 65.0% (R04) → 61.5% (R05) (学習についてのアンケート結果より) 機械科 計算技術検定 97.7%、情報技術検定 53.3% 電気科 第2種電気工事士(1年)100%、 電子科 情報技術検定 90.0%(1年)、1・2級 50.8%(2/3年)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">学習についてのアンケート結果から通常の期間(考査中ではない)では、毎日学習する生徒は61.5%と昨年度より少なかった。しかし、朝学習への取り組みや資格取得に対する意識は高く、みんなで取り組むムードがあれば、自分も頑張れるという生徒が多いと感じる。朝学習への取り組み 各学年の取り組みにより、朝の登校後の時間を朝学習に充てる生徒が増えた。内容は基礎的なワークを少しずつクリアしていくものだが、継続して行うことで計算力や英語力が徐々に向上している。ベネッセ基礎学力テスト(外部)から見る推移 現2年生のデータでは、特に成績下位の生徒が基礎力を身に付けていることがわかる。現1年生も今後の継続により同様の効果が期待される。各科における資格取得への取り組み 今年度から、達成目標を受験回数ではなく、各学科で定める主たる資格を中心に重点的に指導・受検した。全員合格するなど多くの成果がみられた。ジュニアマイスター表彰者は、ゴールド19名(R4 6名、R3 12名)、シルバー4名(R4 6名、R3 18名)となり、ゴールド認定者が大きく増加した。特に2年生でゴールド認定者が10名となり、資格取得に対する意識の高さがうかがえる(今後の追加申請で数名が受賞の見込み)。
評価	C B
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">家庭学習の時間があまり増加しなかったという結果であったが、新型コロナウイルス感染症の第5類への移行によって部活動や屋外での活動時間が増えた結果、家庭学習時間の減少に影響したのではないかと。朝学習への取り組みは良いとの報告があったが、強制力があまりないにもかかわらず、自主的に朝学習に取り組む習慣が確立していることはよいと思う。家庭での学習習慣がついている生徒の割合は、どの年度の生徒でもほぼ同じなのか。入学時点での割合の調査結果とその後の調査との比較が必要であると思われる。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">年々増加する基礎学力が不足している生徒に対する継続的な指導及び学習意欲を高める工夫ICT機器の効果的な活用を模索し、自宅学習や各科の実習、課題や朝学習への応用学科ごとに設定した資格取得までの、計画的な指導と学習・学校活動との協和的な方法の工夫

(様式5)

令和5年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活																					
重点課題	「問題や困難を抱える生徒の把握と支援体制の確立」																					
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席者が増加している。また多様な悩みを抱えて授業や学校生活に集中できないなど問題を抱える生徒が散見される。 ・基本的な生活習慣の乱れが学習活動に悪影響を及ぼしている生徒、体調不良を訴えて欠席する生徒が少なからずいる。 																					
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席者に対する適切で丁寧な指導支援を目標とする。 ・昨年度の欠席数・遅刻数・早退数のそれぞれ10%減を目標とする。 																					
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きアンテナを高く張り、生徒の様子・変化を見逃さずに生徒理解に努める。 ・各アンケートを活用し、生徒との面談を充実させ、問題を抱える生徒にはともに原因を探り解決策を見いだす。 ・こまめに情報を共有する機会を設け、必要に応じてケース会議を行い、組織として対応する体制を強化する。 ・保護者との報告・連絡・相談を密にし、家庭との協力体制を充実させる。 ・SCやSSW、教育センターなど外部機関の専門家を積極的に活用する。 ・各科や学年、保健厚生部等と連携し、学業を中心とした生活習慣の確立・維持を促す。 ・学年で実施している朝学習をもとに、毎朝の遅刻指導を徹底し、声かけをする。 																					
達成度	<p><過年度と本年度のデータ比較（12月までの合計）></p> <p>長期欠席者（欠席数30日以上）の数 9名（昨年度11名（学年末））</p> <table border="1"> <tr> <td>欠席</td> <td>684</td> <td>（昨年度439）</td> <td>+55.8%</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>1050</td> <td>（昨年度843）</td> <td>+24.6%</td> <td>（長期欠席者込み）</td> </tr> <tr> <td>遅刻</td> <td>167</td> <td>（昨年度170）</td> <td>-1.7%</td> <td>（うち怠惰による遅刻40（昨年度45）-11%）</td> </tr> <tr> <td>早退</td> <td>188</td> <td>（昨年度163）</td> <td>+15.3%</td> <td></td> </tr> </table>		欠席	684	（昨年度439）	+55.8%			1050	（昨年度843）	+24.6%	（長期欠席者込み）	遅刻	167	（昨年度170）	-1.7%	（うち怠惰による遅刻40（昨年度45）-11%）	早退	188	（昨年度163）	+15.3%	
欠席	684	（昨年度439）	+55.8%																			
	1050	（昨年度843）	+24.6%	（長期欠席者込み）																		
遅刻	167	（昨年度170）	-1.7%	（うち怠惰による遅刻40（昨年度45）-11%）																		
早退	188	（昨年度163）	+15.3%																			
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議毎に、問題を抱える生徒について情報交換し、全教職員で共通理解を図った。 ・指導に注意を要する生徒についてケース会議を行い、情報を共有し対応に共通理解を図った。 ・外部講師を招き、不登校について未然防止や対応についての校内研修を実施した。また『SOSの見つけ方・受け止め方』を配布し研修を行った。 ・タブレットを用いた健康調査に、いつでも相談ごとを書き込める機能を追加した。 ・生活習慣アンケートやQIアンケート等を実施し、生徒の実態把握・理解に努め、問題を抱える生徒の発見・予防・対応に取り組んだ。学校カウンセラー等にも協力いただいた。 ・学年実施の朝学習と連動し、玄関での遅刻指導、声かけを積極的に行った。遅刻した生徒には面談及び翌朝の清掃奉仕活動を通して改善を促した。 ・スマホやネット利用について、外部講師を招聘したりアンケートを実施したりして、生徒がその利用の仕方や普段の生活を振り返る機会を持った。 ・保健部では毎月保健だよりを発行し、生徒に体調管理について啓蒙した。 																					
評価	B	・長期欠席者は少なからずいるが、それに対し新しい試みを取り入れている。																				
	C	・長期欠席者を除いても、欠席数は増加している。																				
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部が中心となって、長欠者を減らす取り組みを工夫しながら実施している点はよいと思った。これからも続けてほしい。 ・学校周辺で道路工事をしており、危険な場所があるかもしれないので、自転車のヘルメット着用をこれまで以上に推進してほしい。 ・新型コロナウイルス感染症の流行によって、世の中のあらゆることが少しずつ変化してきている。学校も校則など徐々に変化していかざるを得ないと思う。 																					
次年度へ向けての課題	<p>長期欠席者が多い。多様な問題や悩みを抱えて授業や学校生活に集中できない生徒も散見される。引き続きアンテナを高く張り、生徒の様子・変化を見逃さず理解に努め、場合によって外部の専門家を積極的に活用し、チーム学校として組織的に対応する必要がある。小中学校ですでに問題を抱えているケースが多く、中学校との連携をさらに充実させていきたい。また入学後、新たな人間関係をスムーズに築いていけるような配慮も必要である。組織として対応する体制をさらに整えることが重要である。</p>																					

令和5年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	学年、科と連携した進路指導の充実および自己理解を通じた進路支援	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料やエネルギー価格の高騰や海外需要の落ち込み、新型コロナウイルス感染症の影響などのマイナス要因はあるが、若年労働者の慢性的な人手不足により企業の求人は増加している。 ・基礎学力やコミュニケーション能力が不足な生徒がいる。 	
達成目標	年度内進路決定 100%	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との積極的な情報交換により、企業のニーズを捉え生徒・学年に伝え生徒の就職活動に活かす。 ・進路に悩む生徒との面談を実施し、進路指導の立場からアドバイスする。 ・基礎学力やコミュニケーション能力の不足が心配される生徒を早期に把握し、学年、科との連携の下に本人の希望や適性に合った進路先の確保・開拓に努める。就労困難な生徒の場合はハローワーク等の専門機関と連携し、適切な進路決定を目指す。 ・職業適性検査や自己分析の実施と就職スタートブック（労働局）の活用。 ・面接指導の充実により、面接試験だけでなく就労意識の向上を目指す。 ・HR時に、自己分析の時間を設ける。適性を考えるVTR教材の活用を図る。 ・進路の手引きを全学年に配布し、生徒と保護者に進路決定の流れを知ってもらう。 ・校外学習や工場見学、インターンシップ、応募前見学、オープンキャンパスを通じて企業や学校を知り、進路決定するように指導する。 	
達 成 度	就職希望者 103 名全員が内定。進学希望者 53 名中、52 名の進学先が決定している。残り 1 名が一般受験継続中である。卒業予定者 156 名中 155 名、99.4%の進路が決定しており、目標はほぼ達成した。	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・5月の3年生進路保護者会では、進路決定までの流れや注意すべきポイントを記したプリントを作成し、保護者に配布した。学年、科との連携もスムーズに進み、進路決定までの流れを確実に保護者に伝達できた。 ・7月求人受付状況を一覧で提示し、就職希望者は一人2社以上見学。進学希望者に向けて国数英物理の補習実施や個別添削指導。オープンキャンパスも行くように指導。 ・オンラインで実施された企業説明会や学校説明会に適切に対応できた。 ・9月学校全体で面接指導に取り組み、就職、入学試験に向かわせた。 ・1年時から進路希望を取り、工場や学校見学、進路ガイダンス、インターンシップを通して進路先を知り、3年時で進路を決定するまでの流れができています。 	
評 価	B	卒業予定者 156 名中 155 名が進路先決定
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・進路未定者が1名いることで、評価をBとするのは厳しすぎると思われる。 ・卒業後の離職や退学の状況について把握し、就職や進学先でのミスマッチを防ぐようにしてほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や進学先で必要なコミュニケーション能力や挨拶、マナーを授業や部活動、学校行事や学級活動などで引き続き指導する。 ・進学先でのミスマッチを防ぎ、途中退学をなくすように補習等で基礎学力の定着を図る。 ・就職先でのミスマッチを防ぎ、早期離職をなくすように、進路希望調査を効果的に利用し生徒の職業意識の醸成を図る。 	

(様式5)

令和5年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	特別活動	
重点課題	部活動の充実	
現状	<ul style="list-style-type: none">・原則全員部活動加入制を取っており、運動部に 58%、文化部に 39%の生徒が所属しているが、3%の生徒が部活動に無所属である。・昨年度の部活動に関するアンケートにおいて、各自の取り組みについての満足度自己評価で「満足」と「ほぼ満足」と回答した生徒は 85%であった。・昨年度はコロナウイルス感染症の影響が小さくなり、部活動のある程度実施できた。	
達成目標	<ul style="list-style-type: none">・部活動への各自の取り組みについての満足度自己評価において「満足」または「ほぼ満足」が 90%以上	
方策	<ul style="list-style-type: none">・激励会において、全校生徒で選手を応援することで学校の代表としての活躍を期待する。・生徒の活躍を校内で披露し、他の生徒のよき手本を示し、その波及効果を期待する。・生徒会活動、学校行事等でリーダー活動を経験させ、各部活動の主体的活動につなげる。・全国大会出場の際の懸垂幕掲示や学校ホームページへの掲載を通して学校外に広報し、部活動への関心と期待を高め、部活動の一層の充実を図る。・部活動指導員、スポーツエキスパート等により部活動指導体制の強化を図る。	
達成度	昨年 12 月末に全校生徒に実施したアンケート結果 <ul style="list-style-type: none">・部活動への各自の満足度(4段階) とても満足できた 29%、満足できた 59% 計 88%・部活動への貢献度(4段階) とても貢献できた 23%、貢献できた 46% 計 69%	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・今年度は、体育大会、鷹工展などの学校行事をコロナ等の影響を考慮する必要がなく、通常開催できた。そのため、生徒主体でリーダーを中心とした活動を経験させることができた。・PTA通信、砺工新聞、学校HP、職員室前に賞状コピーの掲示等で活動結果を広報した。・全国大会に出場する部活動については懸垂幕を作成し学校正面側に掲示した。・賞状伝達を実施し、各予選会での活躍を披露した。・激励会を実施し、各予選会での活躍を祈念し、全生徒から上位大会で活躍するよう選手を激励した。・吹奏楽部は部活動指導員、野球、剣道、スキー、サッカー、柔道はスポーツエキスパートの制度を活用し、指導体制が充実した。	
評価	B	コロナ等の感染症の影響が少なくなり、日頃の活動や各大会の制限がなくなったため、満足できたと答える生徒が若干増えたと考えられる。目標の 90%は達成できなかった。 全国大会には囲碁将棋部、機械工学部（相撲ロボット）、電子工学部（ものづくりコンテスト・マイコンカー）、スキー部（個人・インターハイ、国体）が出場した。また、団体競技でラグビー部、バレーボール部が北信越大会へ出場した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">・今年度、鷹栖公民館や砺波地区のイベントなどで、砺波工業高校のものづくりの成果を展示していただき、たいへん感謝している。今後も、手間はかかるとは思いますが、地道に生徒の活動を地域のイベントで発信して行ってほしい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・学校行事を通して生徒主体でリーダーを中心とした活動をもっと充実させたい。そのために、体育大会や鷹工展の準備時間を多くとれるよう配慮する必要がある。・部活動のさらなる充実や成績の向上には、外部指導員を積極的に導入する必要がある。・充実した部活動にするため、指導者と生徒が運営方法などについて話し合うなど、お互い協力しながら活動していくことが必要だと考える。	